

夢に向かって 奏で続けるバイオリン

～平成28年度 明るく幸せな社会を築く《若槻地区住民集会》開催～



去る7月30日(土)の午後、コミュニティセンター体育館において、若槻地区住民集会が開催されました。気温が30度を超える暑さにも拘らず、150名を超える参加者が集まりました。

第1部の「第66回社会を明るくする運動」では、保護司会からの事業の趣旨などの説明のあと、徳間小や北部中の4名の児童・生徒による作文や委員会活動の発表がありました。体験から得た、友だちの有難さ、人を思いやることの大切さを生き生きと語ってくれました。続いて手話サークルの皆さんの手話歌が披露され、第1部が和やかに終わりました。

第2部は、講師の牧美花さんによる「夏は来ぬ」のバイオリン演奏で始まりました。幼少時、スズキ・メソッドの創始者である鈴木鎮一氏と出会い、左手が不自由であっても「バイオリンを右手で持つ」という方法ならば弾けるのではと練習を始めたとのこと。見守り続けたお母様の思い、アメリカでの演奏指導の経験などのお話の合間に、「ユーモレスク」、「花は咲く」、「チャルダッシュ」などの耳



に馴染んだ名曲の数々を、客席の間をゆっくりと歩きながら演奏されました。あらかじめ曲目を定めず、当日の顔ぶれや雰囲気を見て弾くという、演奏力の確かさや豊富な経験に裏打ちされたスタイルの講演で、あっという間の1時間でした。最後に、北部中学校PTAの清水会長により若槻地区人権尊重アピールが読み上げられ、集会は終わりました。

講演会の締めくくりに、手話サークルの皆さんと合同で「365日の紙飛行機」が奏でられました。牧さんの発案で急遽実現したコラボレーションです。一人ひとりの違いに気づき、思いやり、工夫して歩み寄ることで、人権が尊重され皆が自分らしく生きることのできる社会が実現されるのだと改めて気づかせてくれる、素晴らしいエンディングでした。

(人権教育部会)



づき、思いやり、工夫して歩み寄ることで、人権が尊重され皆が自分らしく生きることのできる社会が実現されるのだと改めて気づかせてくれる、素晴らしいエンディングでした。



サイまるのアプロフィール

- 3月3日生まれ
- 永遠の33歳
- 3歳の息子がいる
- 好きなものは山菜
- 嫌いなものはボイ捨て
- 出產地 三才駅



8月7日のお披露目式
(古里総合市民センター)

子ども達に大人気!!



三才駅の利用促進に向けた取り組みを、住民及び関係機関・団体が一体となって推進することを目的として、平成27年2月に設立した『三才駅利用促進協議会』では、今年度事業の目玉となる“キャラクター”の着ぐるみを製作しました。

去る8月7日(日)に、キャラクターの製作に協力していただいた清泉女学院大学・短期大学の皆さんや地元の保育園児などの関係者や報道機関等に「お披露目」しました。

キャラクターの名前は **サイまる** で、9月11日(日)、三才駅に初登場します。今後は、月1回程度の登場を予定していて、現在、三才駅で「おもてなし」活動を行なっている『ウェルカム三才児プロジェクト』の皆さんと一緒に、全国からのお客様を温かくお迎えます。

お披露目式では、関係者や子ども達と記念写真を撮りました。

子ども達は **サイまる** に夢中になっているためなかなか撮影ができず、カメラマンも苦笑いでした。

地域の交通手段を維持していくため、若槻地区の皆さんも、北しなの線並びに三才駅の利用促進にご協力をお願いいたします。

三才駅利用促進協議会

副会長 荒木 邦夫 (平成26年度 コミわか会長)